

地域の持続可能性を重視する旅行者を誘客し、環境保全に貢献してもらうことで、日高山脈の環境保全を持続可能なものにするこ
とを目的として、当該国立公園の各エリアの自然と人を繋ぐ「ロングトレイル」の造成を検討するため、以下の基礎調査を実施した。

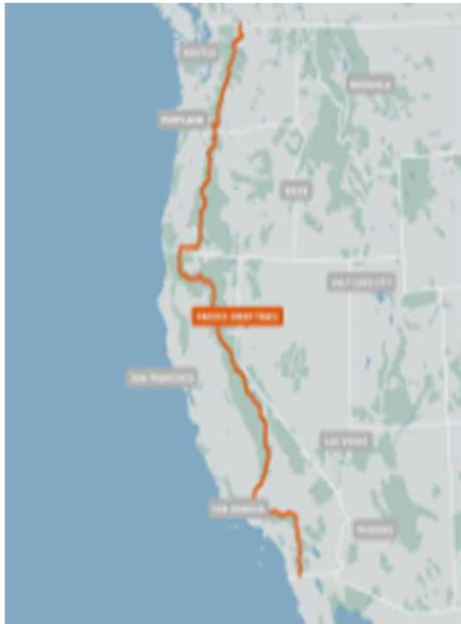
(1) 先進地調査

① 先進地の文献調査

アメリカのナショナルシーニックトレイルとなっている「パシフィック・クレスト・トレイル（以下、PCT）」をはじめ、国内の先進事例として民間主導で開通した「信越トレイル」、環境省が主導して開通した「みちのく潮風トレイル（以下、MCT）」等、計5つの事例の調査を行った。

PCT

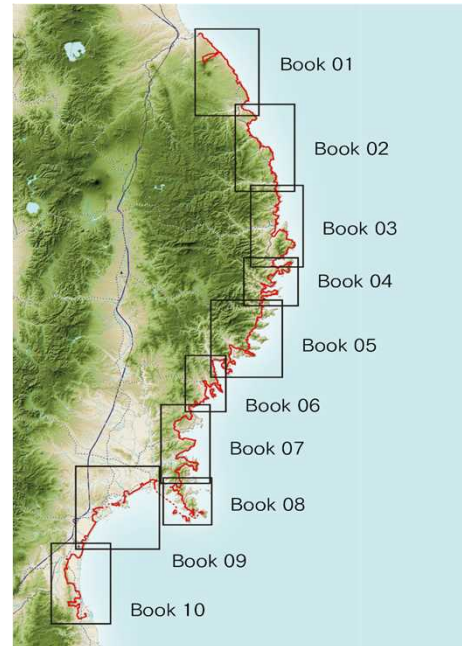
アメリカ西海岸に位置し、メキシコ国境～カナダ国境に及ぶ全長4,265kmのトレイル



② 先進地の現地視察（参加者5名）

2025年9月6日～9日、MCTを3泊4日で訪問。当該エリアの自治体、地域事業者が参画し、MCTに関わる地域関係者等を訪問、体験を通じて意見交換を実施。

視察を経て、ロングトレイルの特徴として以下のことが挙げられることを実感した。



MCT

青森県～福島県まで4県29市町村に跨がる全長4,265kmのトレイル



みちのく潮風トレイル
Michimoku Coastal Trail



ロングトレイルの特徴

一般的な「観光」では、繋がること少ない「住民」と「来訪者（ハイカー）」との繋がりが生まれ、経済効果だけではなく、地域の方々と来訪者双方に、地域への思い入れや貢献意識が育まれる旅行の形態である

先進地調査のまとめ

- 「ロングトレイル」は、来訪者に地域貢献意識を醸成させるとともに、受け入れる地域の方々のシビックプライドを醸成させることができるものであり、環境保全への貢献が期待できるものである
- ロングトレイルが機能するためには、以下のことが重要となる

ロングトレイルが機能するために必要な5つの要件と関係者の対等なパートナーシップが重要

ロングトレイルシステムの5つの要件

- 1) 長く1本に続いている道であること
- 2) 道の管理主体が明確であること
- 3) 道の状態を把握し、共有する仕組みがあること
- 4) 利用情報を提供できる仕組みがあること
- 5) 3)、4)を適切に実施するため地域を含んだ管理運営体制があること

1. 地域の声を聞く
(行政・住民)



地元の運営団体の発掘、自立、主体的な動きを促しサポートする

県・市町村、住民、事業者、地域の有識者、協力施設、自然公園管理員等

3. 適切な専門家と協働

インタープリテーション
ブランディング
トレイル運営
旅行会社
協力企業等



ロングトレイルの維持管理・運営システム構築の考え方

3者が協働し道を作り育てるための信頼関係と対等なパートナーシップの構築が最も重要

2. ハイカーの声を聞く



国内外のロングトレイルのハイキング経験者等

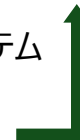
4. 土地の声を聞く = 実際に「歩く」ことを重視

5. 「ならでは」を明らかにし、「ありのまま」を大切にする = 地域本来の姿を見る

6. 「長く」1本に続く価値を理解する

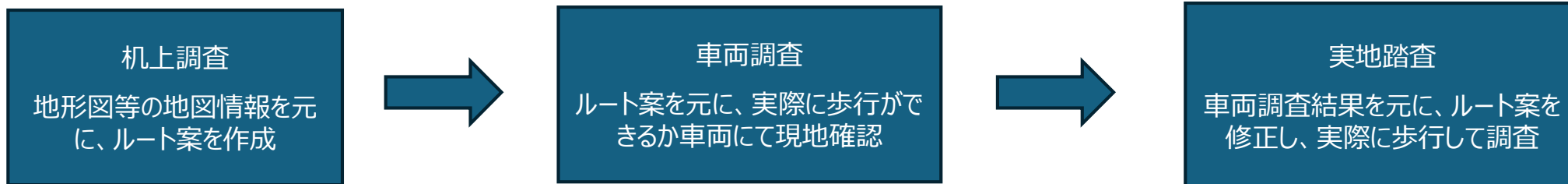
本トレイルを持続可能にする、ロングトレイルシステムの5つの要件はじめ、ロングトレイルシステム構築のプロセス等十分理解の上業務に取り組むこととする。

<https://www.env.go.jp/nature/mankitsu-project/nationalpark/longtrail.html>



(2) トレイル調査

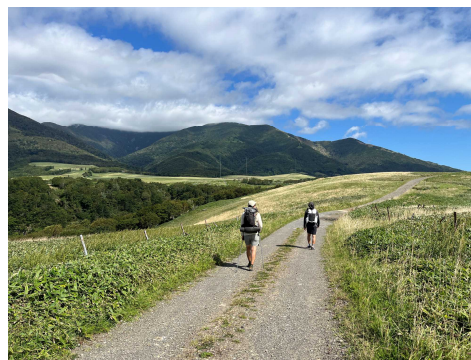
日高山脈エリアに「ロングトレイル」を造成することができるかどうか検討するために、以下の流れで、検討材料となる「道」の情報の整理を行った。



調査のポイント

実地踏査により以下のポイントを確認した。

- ①安全に歩行できるか
- ②補給が可能か
- ③宿泊ができるか
- ④公共交通の運行状況
- ⑤ハイカーにとって魅力的か



トレイル調査まとめ

公共交通（バス）を利用することで、補給、宿泊は可能だが、安全面に課題があるルートもあり、調査で歩いたルートそのまま使用することは難しいと考える。

一方で、北海道発の官営道路等、歴史的な山道が残されている等魅力的なトレイルや、調査員と住民との触れ合いが生まれる等、ハイカーにとって魅力的な要素も多くあることが分かった。

今回、調査しきれなかった十勝エリアを含めて引き続き調査をしていく必要がある。



(3) 地域の機運醸成 (参加者69名)

セミナーの開催（中札内、平取）：2会場において、ロングトレイルの魅力、MCTの事例等を紹介しグループワークによる意見交換を実施した。

【プログラム】

- ①「長く歩く旅の魅力と世界のロングトレイル」
一社)トレイルブレイズハイキング研究所 所長 長谷川 晋 氏
- ②「みちのく潮風トレイル」の事例について
NPO法人みちのくトレイルクラブ 事務局長 相澤 久美 氏
- ③みちのく潮風トレイルにおける普代村の事例紹介
普代村教育委員会事務局 生涯学習係長 前川 正樹 氏
- ④グループワーク (意見交換)



参加者の反応

道の決め方や、歩き方（トイレや宿泊の問題）等、ロングトレイル特有の質問を数多くいただいた。

運営の持続性等への不安の声もあったが、全体の印象としては、「とても可能性を感じた」「ありのままの地域の魅力を伝えられる」「ロングトレイル造成に積極的に関わりたい」等、ロングトレイルに対する好意的な意見が多かった。

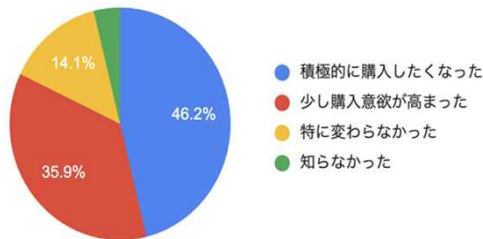
(4) 来訪者が環境保全に貢献する手法の検証

様似町と共同で、ハイキングに興味関心が高い層をターゲットとして、参加することで自然環境保全に貢献できるイベント「HIDAKA TRAIL DAYS」を開催し、参加者の心理的变化等を把握することで、「ロングトレイル」を軸に誘客することで、来訪者が環境保全に貢献する仕組みづくりに繋がるかを検証した。

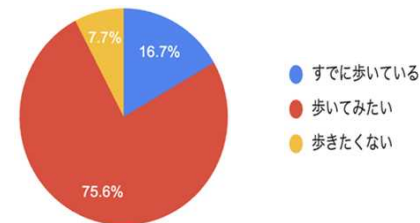


アンケートの一部

売上の一部が自然保護活動に寄付されると知った時、購買意欲はどう変化しましたか？



このイベントに参加してロングトレイルを歩いてみたいと思いましたか？



【HIDAKA TRAIL DAYS概要】

開催日時：2025年10月18日（土）～19日（日）
開催場所：アポイ山麓ファミリーパークキャンプ場（様似町）

- ・入場料の売上は、日高山脈の環境保全に充当
- ・飲食・物販などの出店者には、売上5%を環境保全活動に寄付をしていただく

参加者の80%以上が、売上が環境保全活動に寄付されることで購買欲が向上しており、また、90%以上が「ロングトレイルを歩きたい」もしくは「すでに歩いている」と回答していることから、「ロングトレイル」を軸に貢献できる機会をつくることで、来訪者に環境保全に貢献していただくことが可能であると考えられる。

(5) 運営体制の検討

ロングトレイルの造成、その後の運営に必要な事項や課題等について、専門家を招請し話題提供を行うとともに、当該エリア関係者と意見交換を実施した。

日時：2026年2月6日（金）13:00～16:00



【出席者】
日高山脈エリアの自治体職員、広域連携に取り組む民間事業者等29名

【プログラム】

① 話題提供

・ロングトレイルの公共材としての認知と文化の醸成
NPO法人信越トレイルクラブ 代表理/北海道大学観光学高等研究センター 客員教授
木村 宏 氏

・ロングトレイルの維持管理・運営体制構築の考え方

NPO法人みちのくトレイルクラブ 事務局長 相澤 久美 氏

② 歩行調査結果報告

一社)トレイルブレイズハイキング研究所 所長 長谷川 晋 氏

③ 意見交換 等

(6) とりまとめ

「ロングトレイル」の地域にもたらす恩恵や、ハイカーの環境保全意識の高さ等が判明し、**「ロングトレイル」が持続可能な環境保全への手段になり得る**ことが確認できた。また、「ロングトレイル」に対して好意的なイメージを抱く地域関係者も増え、機運が高まる等の成果があった一方で、以下のような課題も明らかになった。

■ 明らかになった課題

① ルートの安全性および維持管理体制の確立

持続可能なトレイルとして運営するためには、主体的な運営団体の確立が絶対必要であり、運営計画や詳細な安全基準等の策定等、官民が連携した体制構築が必要となる。

② 環境保全に資する資金循環の仕組みの構築

来訪者の消費を環境保全活動に還元する仕組みについて、利用者及び地域双方にとって受容性の高い具体的な運用方法を検討する必要がある。

③ 広域連携の具体化

13市町村にまたがる広大なエリアにおいて、各地域の特色を活かしつつ、「日高山脈エリア」として統一的なブランドメッセージ及びインタープリテーションの手法を整理する必要がある。

これらを踏まえ、次年度以降も①運営主体の検討、②ルート調査の深化、③ルート選定および法的整理、④実証フィールドでのモデル展開等の施策を段階的に実施していく必要がある。